

役員室 だより

世界トップ10の研究型総合 大学を目指す「夢と志」

22世紀に輝く

総長 平野 俊夫

私の総長の任期4年の前半2年が終了いたしました。構成員の皆様方のご努力のお陰で2年間が無事経過し、それなりの実績も残すことができました。改めてお礼申し上げます。8月26日からいよいよ後半の2年が始まりましたが、引き続き、皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。

私は常日ごろ、大学運営には、「志」と「理念」が重要であり、これを実現するための「戦略」と「戦術」がなくてはならないと考えています。またこれに加えて、「対話」と「恕の心」が重要であると思っています。過去2年間は特に対話を重視し、部局長の方々はもちろん、本部事務機構の管理職の人たち、各部局の教授を含む教員や事務職員の皆さん、さらには学生たちとも機会あるごとに対話する努力を行ってきました。この2年間に約400名の方々と対話を持つ機会がありました。今後もこの姿勢は続けていくつもりです。

その上で、これからの後半2年間は戦略を実現するための具体的な方策、すなわちどのような戦術を立てるかと言うこと、それを確実に実行していくことが重要となります。この認識を理事や構成員の皆さんと強く共有したいと思います。特に今年は具体的な戦術の策定とその速やかな実行が基本です。

大阪大学の将来の確固たる基盤を確立するため、特に次のことを皆様方をお願いいたしたく存じます。

今後は、未来戦略機構を中心に部局横断的な教育・研究を推進するとともに、未来を見据えた大学戦略の策定とその推進を行っていきます。

研究の更なる国際化とレベルアップは勿論のこと、教育の国際化を強力に進め、グローバルキャンパスの実現に向けて総力を挙げて取り組みます。次世代を担う若い人たちがモチベーションを高め、未来に向けて夢を持って邁進できる環境整備にこれまで以上に力を注ぎたいと思います。

大阪大学未来基金は、創立100周年に、世界トップ10に向けて、100億円の寄付を目指します。学生のみならず、教職員の皆様方には、是非とも自らの努力で私たちの大阪大学を少しでも良くするという自覚と決意をもっていただきたいと思います。10月1日に、大阪大学未来基金ワンコイン募金キャンペーンを開始しました。一人でも多くの方にこのキャンペーンに参加していただき、大阪大学構成員一人ひとりの英知と力を結集して大阪大学が22世紀にも輝き続ける基盤を築きましょう。

「22世紀に輝く大阪大学」ビジョンを、夢のままに終わらせることなく、夢の実現に向け、私も全身全霊を傾けて取り組みます。大阪大学が発展することは日本の将来は勿論のこと、人類全体の発展と福祉の向上につながるものです。皆様方の英知とご尽力により大阪大学が2031年の創立100周年、そしてその先の22世紀を見据えて、ひかり輝き続けることができるように全力投球をしていきたいと思いますので、構成員の皆様方には、引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

志

創立100周年に世界トップ10の研究型総合大学になる(世界でトップクラスの大学になる)。

理念

「大学は学問と教育の府である」、もって社会の発展と福祉に貢献する。

戦略

大阪大学未来戦略(2012-2015) — 22世紀に輝く—を着実に実行する。

戦術

世界トップ10に向けた部局マネジメント及び人材育成・獲得支援策など、今後様々な具体策を実行していく。



総長、理事、監事(総長室)

役員室だより

新理事・副学長紹介



大竹 文雄 (おたけ ふみお)
財務戦略担当

昭和58年3月 京都大学経済学部卒業
60年3月 大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了
60年7月 同 助手経済学部
63年4月 大阪府立大学経済学部講師
平成2年4月 大阪大学助教授社会経済研究所
8年3月 博士(経済学)(大阪大学)
13年5月 大阪大学教授社会経済研究所
19年4月 同 社会経済研究所長(平成21年3月まで)
22年4月 同 総長補佐(平成23年8月まで)
24年4月 同 理事補佐(平成25年8月まで)
25年7月 同 特別教授(平成28年6月まで)
25年8月 同 理事・副学長(平成27年8月まで)

専門分野 労働経済学、行動経済学

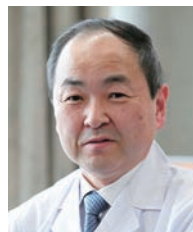


岡村 康行 (おかむら やすゆき)
国際・広報戦略、
社会学連携担当

昭和48年3月 大阪大学基礎工学部卒業
50年3月 同 大学院基礎工学研究科修士課程修了
53年3月 同 大学院基礎工学研究科博士課程修了
53年3月 工学博士(大阪大学)
53年4月 国際電信電話株式会社
56年7月 大阪大学助手基礎工学部
62年10月 同 助教授基礎工学部
平成8年4月 和歌山大学教授システム工学部
15年4月 大阪大学教授大学院基礎工学研究科
19年8月 同 評議員(平成23年8月まで)
23年8月 同 大学院基礎工学研究科長・基礎工学部長
(平成25年8月まで)
25年8月 同 理事・副学長(平成27年8月まで)

専門分野 光エレクトロニクス

新副学長紹介



吉川 秀樹 (よしかわ ひでき)
病院運営担当

昭和54年3月 大阪大学医学部卒業
58年3月 同 大学院医学研究科博士課程修了
医学博士(大阪大学)
58年4月 大阪大学医学部研究生
59年5月 同 医学部附属病院医員
59年9月 米国 Kansas 大学病理学教室研究員
60年9月 大阪大学医学部研究生
61年1月 同 助手医学部
平成5年7月 同 講師医学部
7年4月 大阪府立成人病センター整形外科部長
10年9月 大阪大学講師医学部
11年11月 同 教授大学院医学系研究科
21年2月 同 医学部附属病院副病院長(平成24年3月まで)
24年4月 同 総長補佐(平成25年8月まで)
同 医学部附属病院院長(平成26年3月まで)
25年8月 同 副学長(平成26年3月まで)

専門分野 骨軟部腫瘍外科、骨・軟骨再生医療



池田 雅夫 (いけだ まさお)
URA (University Research
Administrator) 担当

昭和44年3月 大阪大学工学部卒業
46年3月 同 大学院工学研究科修士課程修了
48年3月 同 大学院工学研究科博士課程退学
48年4月 神戸大学助手工学部
50年6月 工学博士(大阪大学)
50年6月 神戸大学講師工学部
51年4月 同 助教授工学部
平成2年4月 同 教授工学部
7年4月 大阪大学教授工学部
14年4月 同 評議員(平成16年3月まで)
17年4月 同 大学院工学研究科副研究科長(平成22年3月まで)
22年4月 同 大型教育研究プロジェクト支援室特任教授・統括
マネージャー
25年8月 同 副学長(平成27年3月まで)

専門分野 制御工学

「未来戦略」に向けた施策 ～教員ポストの活用～

大阪大学は、物事の本質を見極め世界に羽ばたくグローバル人材を育成し、創立100周年を迎える2031年には研究型総合大学として“世界トップ10”に入ることを目指しています。このためには、グローバル大学として必要な全学的な基盤を構築するとともに、部局長の裁量の幅を広げることによってそのマネジメントの充実を図り、各部署の教育研究レベルを一層高めていく「未来戦略」を実行する必要があります。

この度、平成26年度から10年間で教員ポストの約5% (年約0.5%) 程度を各部署から大学に留保することとしました。大学に留保された教員ポストは、「未来戦略」の実行のため、財務状況の許容範囲内で、期限を付して次のように活用していくこととします。

- ① 「未来戦略」の実行のために大学全体の見地から必要な業務を行うポストに配分。
- ② 「未来戦略」の実行のために積極的なマネジメントを行う部署に対して、「部局長裁量ポスト」として配分。

理事・副学長 恵比須 繁之
理事 尾山 眞之助

経営協議会委員が「適塾」を 視察



9月10日(火)に、本学経営協議会委員が大阪市内の北浜に残る「適塾」(1838年開設・史跡・重要文化財)を視察しました。平野俊夫総長から、創設175周年を迎えた適塾から大阪大学に繋がる歴史について説明がありました。次いで、適塾記念センターの村田路人文科学研究科教授から、緒方洪庵の業績や適塾で行われた教育についての保存資料などの説明がありました。

国際共同研究促進プログラムを 選定

最先端の研究を展開している外国人研究者と共同研究を行い、本学の研究力を一層高めるとともに、グローバル化を促進するための事業として、「国際共同研究促進プログラム」を創設しました。

学内公募に対して27件の実施計画書の提出があり、選考委員会において、15件のプログラムを選定しました。

選定されたプログラムには、外国人研究者の旅費・謝金、教職員・学生の旅費、研究員の雇用経費など、1年度当たり最大1,500万円、最長3年間の支援を行います。

また、本学のグローバル化をより推進するため、今年度はこれら15件のプログラムに加え、本年度応募者に対して、単年度限りの支援も行うこととしました。

なお、来年度スタート予定の事業の募集も実施する予定です。

未来研究イニシアティブ・ グループ支援事業を選定

大阪大学ならではの基礎研究の推進や国家的課題解決に向けた研究にイニシアティブを発揮するための新たな研究分野の創出を目的とした、「未来研究イニシアティブ・グループ支援事業」を創設し、学内公募を行いました。

この度、提案のあった25件の事業について、審査委員会において審査を行い、11件の事業を選定しました。

これらの事業には、今後3年間にわたり、研究費(平成25年度は90万円～180万円)を支援することとしています。

※本年度の両プログラムに関する情報はICHO、マイハンドイからご確認いただけます。

※採択一覧は、22ページに掲載しております。

理事・副学長 相本 三郎

国際共同研究促進プログラム 採択一覧

研究代表者氏名	所属・職	外国人研究者所属機関 (国名)
浅田 稔	未来戦略機構・教授	カリフォルニア工科大学 (アメリカ)
井上 克郎	情報科学研究科・教授	ヴィクトリア大学 (カナダ)
柏木 正	工学研究科・教授	ナント中央理工科大学 (フランス)
栗栖 源嗣	蛋白質研究所・教授	ルール大学ボーフム (ドイツ)
兒玉 了祐	工学研究科・教授	フランス国立科学研究センターエコールポリテクニク (フランス)
篠原 彰	蛋白質研究所・教授	フリードリヒ・ミーシャー研究所 (スイス)
杉本 宜昭	工学研究科・准教授	チェコ科学アカデミー (チェコ)
芹澤 成弘	社会経済研究所・教授	インド統計大学 (インド)
長峯 健太郎	理学研究科・教授	ケンタッキー大学 (アメリカ)
西野 邦彦	産業科学研究科・准教授	香港大学 (香港)
畑中 吉治	核物理研究センター・教授	カナダ国立素粒子原子核物理研究所 (カナダ)
早川 和生	医学系研究科保健学専攻/ 附属ツインリサーチセンター・教授	ヘルシンキ大学 (フィンランド)
藤田 一郎	生命機能研究科・教授	ユーリッヒ総合研究機構/アーヘン工科大学 (ドイツ)
真島 和志	基礎工学研究科・教授	スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (スイス)
村上 秀明	歯学研究科・准教授	コペンハーゲン大学 (デンマーク)

未来研究イニシアティブ・グループ支援事業 採択一覧

氏名	所属・職	グループ名
芦田 昌明	基礎工学研究科・教授	20オクターブ分光による多階層物質ダイナミクス研究拠点
井元 信之	基礎工学研究科・教授	量子インターフェース研究企画グループ
大屋 幸輔	金融・保険教育研究センター・ センター長	リスク解析・資本市場研究グループ
冨田 博一	基礎工学研究科・教授	分子技術イニシアティブ
田中 仁	法学研究科・教授	21世紀課題群と中国
豊田 岐聡	理学研究科附属基礎理学プロジェ クト研究センター・副センター長	MULTUMで切り拓くオンサイトマクスベクトロメトリ
深瀬 浩一	理学研究科・教授	インテリジェント生体制御分子の創製と新規医薬、医療診断への展開
藤原 康文	工学研究科・教授	グリーンナノマテリアル“ものづくり”イニシアティブ
三宅 淳	基礎工学研究科・教授	メコン川流域ベトナム南部における地域適合型の包括的な環境 再生ソリューションモデルの形成 (発展途上国の環境問題を総合 的に支援するための技術統合グループの形成を目指して)
吉田 博	基礎工学研究科・教授	計算機ナノマテリアルデザイン新元素戦略
吉田 陽一	産業科学研究科附属産業科学 ナノテクノロジーセンター・センター長	大阪大学ナノサイエンス・ナノテクノロジーアライアンス

七大戦、終宴

9か月間の熱き戦い、お疲れさまでした

今大会は本学を主管校として、昨年12月のアイスホッケーを皮切りに約9ヶ月間に渡り全31種目で熱戦が繰り広げられました。本学は、硬式テニス(女子)、空手道(女子)、準硬式野球、体操、アーチェリー、自動車の6種目で優勝しました。平野俊夫総長は閉会式の挨拶で、各大学の選手の健闘を称えるとともに、大会運営に携わった実行委員会の学生の労をねぎらいました。

来年の主管校は京都大学です。京都の地で素晴らしい大会となることを期待しています。

※その他の大会競技写真は「全国七大学総合体育大会 HP 第52回大会 競技風景アルバム」(<http://www.7-univ.jp/>)をご覧ください。

第52回七大戦 総合順位

優勝	東北大学	216pt
準優勝	京都大学	213.5pt
3位	大阪大学	199.5pt
4位	東京大学	189pt
5位	九州大学	181pt
6位	名古屋大学	166pt
7位	北海道大学	164pt

大阪大学 URA シンポジウムを開催



安西理事長の基調講演

8月28日(水)、大阪大学 URA シンポジウム「変革の時代に直面する大学とURAの役割」を、銀杏会館で開催しました。

基調講演では、日本学術振興会の安西祐一郎理事長が、日本版 URA (University Research Administrator) の位置付けや役割、目標等の検討課題を提示しました。また、学外の事例として理化学研究所の古屋輝夫理事から、同研究所の事務職員を中心に進行中の理研型リサーチ・アドミニストレーターに関する取り組みの紹介がありました。

パネルディスカッションでは、URAに求められる専門性や心構え、URAと教職員との役割分担・関係性などについて、議論を行い、URAの今後について考えを深める場となりました。

適塾創設175周年・緒方洪庵没後150年記念
シンポジウムを開催

8月3日(土)、大阪大学シンポジウム「医の知の未来へ」(読売新聞社後援)を、うめきた・グランフロント大阪・コングレコンベンションセンターで開催しました。

第1部では、西田幸二医学系研究科教授、川崎和男工学研究科特任教授、作家・久坂部羊氏が、「いのち」や「医療」について専門の立場からそれぞれ講演しました。

第2部は、読売放送の脇浜紀子アナウンサーの総合司会により講演者3人の座談会が行われ、日本人の「いのち」の未来について考える場となりました。



西田教授、川崎特任教授、久坂部氏(左から)